

令和4年度 岐阜市障害者総合支援協議会 第1回専門部会 議事要旨

日 時 令和4年6月9日(木) 15:30~17:00  
場 所 岐阜市役所6-1大会議室及びオンライン(Zoom)  
出席者 関係団体 13名  
一般・特定相談支援事業所 18名  
地域包括支援センター 16名  
基幹相談支援サテライト 4名  
市役所関係課 1名  
(来庁19名、オンライン33名:合計 52名)

○検討テーマ…虐待防止について

虐待の予防、早期発見、見守りにつながるネットワークの構築のため、虐待防止に関する各関係機関の対応や支援、早期発見等について協議。

1. はじめに

- ・岐阜市障害者総合支援協議会の概要
- ・第1回専門部会の趣旨や流れについて

2. 障害者虐待防止法の概要について

- ・「障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律」の概要(資料1-1)
- ・岐阜市障がい者虐待防止ネットワークについて(資料1-2)

3. 岐阜市の取り組み報告

- ・岐阜市における障がい者虐待防止の取り組みについて(資料2)

4. 障がい者虐待の進捗状況

- ・令和3年度岐阜市の障がい者虐待の通報・受理件数及び、認定事例について

5. グループワーク

虐待の予防・早期発見のための方策について、6グループに分かれて協議。

6. 意見交流

◇グループワークで話し合われた内容の発表

- ・相談支援専門員は、担当ケースが利用しているサービス提供事業所から、気になる事があれば情報提供を受けることで連携している。虐待に発展し得る場合は、ケース会議等を開催し情報共有したり、家族の相談にもものったりしている。
- ・障がい者から高齢の親に攻撃が向いた事案においては、医療機関と連携することで、障がい者の状態が安定したケースがあった。

- ・相談支援専門員によるモニタリングにおいて、家庭の状況によっては、モニタリング頻度を増やすなどして家庭訪問の機会を得て、情報収集に努めている。
- ・顔の見える関係性を作るとともに、関係機関の役割を知っておくことで連携がうまくいく。
- ・虐待通報後、家庭への支援を丁寧に継続することで、障がい者本人や家族と良い関係が継続でき、次の段階の支援に活かしていける。
- ・民生委員と地域包括支援センターの連携のように、民生委員と基幹相談支援サテライトの連携体制も充実させられると良い。
- ・虐待と思われる事案があった時、市役所や支援者等に相談したことのある支援者は多いが、現場を見ていないと判断は難しい。
- ・虐待かどうか判断しようとする個人によって変わってきてしまうため、権利侵害が起きていると思ったら通報する必要がある。
- ・虐待の内容や状況によって、通報先や担当部署が異なるため、日頃から関係機関と連携を密にし、3世代の家庭で起きる虐待の問題にもスムーズに介入できると良い。

#### ◇代表者による協議

- ・どのような事態を虐待と考えれば良いか。
  - 発見者が虐待を判断するのではなく、権利侵害を疑った時点で然るべき機関に相談することが大事。
- ・虐待通報に対する抵抗感がある。
  - 利用者の権利擁護のため、虐待かもしれないとの認識を持って本人や家族とかわっていく必要がある。
- ・虐待を早期発見するためにはどうすると良いか。
  - 高齢者とその子どもの世帯にかかわる場合を考慮すると、担当ケース以外の家族の異変も察知し、関係機関と情報共有することが大事。
  - 障がい者本人だけでなく、家族や利用しているサービスといった、本人を取り巻く環境のアセスメントも必要。
  - 養護者は介護疲れや周囲の不理解により孤立し、子どもへの虐待に至ることがあるため、家族にも声をかけていくと良い。
- ・支援者は本人の養護者にとっても良き理解者となれると良いと思われるが、そうしたケースはあるか。
  - 話したい高齢者は多いため、家族の介護負担軽減も兼ねて、高齢者本人、その家族それぞれから話を聞く機会を持つようにしている。
- ・本人とその家族のアセスメントにおいて大事なことは何か。
  - 心身の状態が安定していれば虐待は起きにくいいため、本人が今の生活に満足しているかを重視している。言語化が困難な事例においては、意思を汲み取る努力をしている。

## 7. まとめ

- ・障害者虐待防止法の概要を確認し、虐待発見時の通報義務や、対応スキーム等について確認した。
- ・家族のストレスや孤立といった家族の構造的背景から虐待が生じることがあるため、担当ケースだけでなく、家族全体をアセスメントし、支援できると良い。
- ・家族全体をアセスメントする中で、日頃から関係機関で情報共有に努め、虐待に発展し得る状況があれば、すみやかに連携することで虐待の早期発見や防止につながる。

## 8. 当日の様子



## 9. 当日アンケートの結果

### ①障害者虐待防止法の概要について

よく理解できた	… 22.2%
理解できた	… 72.2%
どちらでもない	… 5.6%
あまり理解できなかった	… 0.0%
理解できなかった	… 0.0%

### ②岐阜市の取り組み報告について

よく理解できた	… 22.2%
理解できた	… 66.7%
どちらでもない	… 5.5%
あまり理解できなかった	… 5.5%
理解できなかった	… 0.0%

### ③岐阜市における障がい者虐待の進捗状況について

よく理解できた	… 27.8%
理解できた	… 61.1%
どちらでもない	… 5.5%
あまり理解できなかった	… 5.5%
理解できなかった	… 0.0%

④グループワークについて

良かった	… 33	3%
概ね良かった	… 61	1%
どちらでもない	… 5	6%
あまり良くなかった	… 0	0%
良くなかった	… 0	0%

⑤意見交流について

良かった	… 33	3%
概ね良かった	… 66	7%
どちらでもない	… 0	0%
あまり良くなかった	… 0	0%
良くなかった	… 0	0%

⑥本日の感想など

- ・グループワークで普段あまり関わらない分野の人と話すことができ、良い刺激になった。もっと話す時間があると良かった。
- ・多職種、他機関のを知ることができ、連携が大事だと感じた。
- ・家族支援の視点や、本人を取り巻く環境をアセスメントすることが虐待防止につながると感じた。
- ・相談支援専門員として、世帯支援、家族支援も担っていることを再確認した。
- ・地域包括支援センターとして担当する高齢者の家族にも目を向けていく必要を感じた。
- ・虐待や、虐待に発展するかもしれないと感じたら、すぐに相談したい。
- ・利用者の権利を擁護する立場として、権利の侵害があればすぐに動くようにしたい。
- ・障がいのある被虐待者の中には、虐待されている認識がない場合もあるため、支援者が気付いて介入していく責任を感じた。
- ・事例をもとにした話を聞くことができ、理解が深まった。
- ・発見者が虐待かどうか判断をするのではなく、相談・通報によって行政が状況を確認し、判断することがわかった。虐待の疑いがあれば通報し、関係機関と連携していきたい。